

## 日系アメリカ人の個人史をつむぐ -8人のインタビュー記録-

### 1. ソウジロウ・タカムラ（高村 總二郎）さん

#### プロフィール

1920年ハワイ州オアフ島ホノルル生まれ。  
真珠湾攻撃を経験後、米軍入隊。戦後GHQで通訳。  
現在、ハワイプランテーションランテーションビレッジでボランティアガイドとして活動。



#### 真珠湾攻撃の日

12月7日の朝6時頃、ラナイ島で積荷を降ろして船でホノルル港に戻ったの。それから8時頃、カイルアで野球をする約束をしていて仲間をのせて車で野球場に向かった。その時カネオヒの基地にむかって空軍機が射撃している様子が見えて、「今日も演習かな」と思いましたね。ところが、ラジオで「This is a real McCoy! Not a sham battle!」（これは本当の攻撃だ！演習ではない！）と繰り返されるのを聞いて驚いたよ。出会った米兵に家に戻るよう言われて慌てて家に戻り、屋根によじ登って真珠湾の方を見たの。そうしたら煙がもうもうとあがっているのが見えましたよ。町の近くに爆弾が落ちて、二人死にましたよ。それはアメリカ軍の対射砲が日本軍に向けて砲撃されたけれど当らずに落ちて来たものだったの。まさか日本が攻めてくるなんて思わなかったね。夜、灯火管制になってはじめて戦争だって実感したの。ぼくはその後二ヶ月間毎日クヒオの救急センターに通ってけが人の手当や仕事をしながら、「いざ」に備えていました。当時はでたらめな噂があって、例えば日系人が多く働いていたミルク配達人は朝早くからハワイ中を動いているから彼らが日本軍の攻撃案内をしたとかね。二世は日本の攻撃後、困っていましたよ。道で会っても日本人流の振る舞いをやめていました。日本人と思われることが気になったからね。

#### アメリカ軍へ入隊

ぼくは1944年に入隊して軍事情報局に入った。そこには日系二世が集まって、朝6時から夜の8時まで日本語猛特訓をした。教材は普通の日本語だけでなく日本軍言葉や書類だったの。終戦時にはフィリピンのマニラにいて、前線で日

本軍の通信傍受翻訳や書類翻訳をしていました。同じ 仕事をしていた二世の仲間が戦死した仲間もいた。それが運命。仕事の担当がぼくだったら僕が戦死していた。終戦直後、マニラで偶然の出来事が起こって、戦争前に日本に行って二世と結婚した姉の夫が日本軍属の通訳としてマニラにいたの。彼がそっと姉の旧姓のタカムラを知っているかとぼくに聞いたから驚いた。二人とも感激したけれど、当時敵味方の立場だから複雑だった。姉の消息と住所だけ確認できたからよかった。それからぼくは横浜に行った。戦艦ミズーリの上で日米が調印した時、アメリカ軍として通訳の仕事をしていた。1945年9月6日に東京に入って、GHQで戦後処理の仕事をしたのね。

#### 家族の運命

ぼくの兄はハワイ大学を卒業してから早稲田大学に留学をしていたの。二重国籍をもっている兄は日本軍に招集されて、沖縄で戦死した。この話はあまりしたくないの。1940年にハワイで兄と別れてから会っていないし、戦争になってからは音信も途絶え、どんな気持ちで最後を迎えたか想像できない。大学教育まで受けたアメリカ人なのに。

弟は真珠湾攻撃の後442部隊に志願した。両親は兄弟の運命を思ってそれはつらかったらうね。父は日露戦争中ハワイへ来た。ハワイで洋服店をしていた。母の父は官約移民としてハワイに来て、母はハワイで生まれて日本に戻ったけれど、ハワイで生まれた証明がなかったものだから、写真花嫁として日本人としてまたハワイにやってきた。父はぼくに日本とハワイの架け橋になるよう言っていた。

今はハワイのプランテーションビレッジで日本からのお客さんにボランティアでガイドをしています。日本の若い人たちの中に同じアジアの国や人に対して軽んじている雰囲気をつまに感じるの。おかしいね。ハワイでは肌の色もいろいろあし、ルーツもいろいろだけれどみんな平等。

インタビュー：2006年 8月（ハワイプランテーションビレッジ）  
10月（JICA横浜海外移住資料館にて、日本語）

<http://www.discovernikkei.org/nikkeialbum/ja/node/10645>